

3) 「他者」と「成熟」をめぐって (文学の問題)

◆ではどこが対立しているのか？

⇒それは「他者」をめぐる点 (文学＝個人の問題)

【政治の問題】

- 大塚の立場＝「公共性」の維持のために「他者」を受け入れられる正しい公民 (近代人) を育成せよ
- 東、宇野の立場＝「公共性」の維持は不可能、それでも機能する社会設計が必要 (「公共性のための成熟」は必要ない)

【文学の問題】

- 大塚の立場＝「公共性」の維持のために正しい公民になることが個人的な成熟にもつながる
- 東の立場＝「成熟」は必要ではない
- 宇野の立場＝「政治」の問題とは切り離れた、あくまで個人の成熟 (小さな成熟) を重視

4) 人間観について

- あくまで個人の問題として、「自分」のために「他者」を受け入れられるようになったほうがハッピーではないか？
- 承認欲求はコミュニケーション強者 (「他者」を受け入れられるようになった人) のほうが有利？
- 東・宇野の決定的な対立点は「セカイ系と決断主義」ではなく「成熟」をめぐる人間観。
- 社会観、国家観ではそれほど対立点はない。どちらもリバタリアンの、ある意味ネオリベ的？
- 宇野が考えている人間像は「妖怪人間ベム」のようなもの。
「はやく人間になりたい」
- 大塚の人間観＝人間
東の人間観＝動物
宇野の人間観＝妖怪人間ベム
- 大塚の主張するような「人間」の成熟は個人レベルでしか実現しない
- すべての人間に手が届くわけではない＝社会が「成熟」を保証しない。
- その結果「妖怪人間ベム」みたいな存在が街に溢れる

5) 国家観について

- 「政治と文学」は切り離すべき？ (ニート論壇がここが問題)
- では国家間のほうはどうか。
- (2) で述べたような社会像を前提に国家を考えるのが東の次の仕事。
- ルソーとロック、「大文字の S と小文字の s」の
- 「ゼロ年代の想像力」は社会を小文字の s が乱立するモデルで捉える、という話。
- 夜神月は大文字の S ではなく、小文字の s の元気な奴。

6) まとめ

7) PLANETS4 号告知